

新熊 清 教授 略歴・業績目録

新熊 清 教授 略歴

学歴

1941年4月25日	大阪府羽曳野市に生まれる
1960年3月	大阪府立生野高等学校卒業
1965年3月	同志社大学文学部英文学科卒業
1969年3月	同志社大学大学院文学研究科英文学専攻修士課程修了
1975年3月	立正大学大学院文学研究科英文学専攻博士課程単位取得
1995年6月	米国オハイオ州立トリード大学大学院英文学専攻博士課程単位取得

学位

1996年3月	博士（文学）（立正大学）
1996年6月	Ph. D.（米国オハイオ州立トリード大学）

職歴

1969年4月	名古屋学院大学経済学部助手
1971年4月	名古屋学院大学経済学部講師
1975年4月	名古屋学院大学経済学部助教授
1981年4月	名古屋学院大学経済学部教授
1984年4月	名古屋学院大学学生部長（1988年3月まで）
1985年6月	学校法人名古屋学院大学評議員（1993年7月まで）
1988年4月	名古屋学院大学就職部長（1992年3月まで）
1989年4月	名古屋学院大学外国語学部教授
1995年4月	名古屋学院大学大学協議会協議員（2003年3月まで）
1997年4月	名古屋学院大学大学院外国語学研究科修士課程◎教授
2000年4月	名古屋学院大学自己点検評価委員長（2004年3月まで）
2002年4月	名古屋学院大学附属図書館長（2004年9月まで）
2004年10月	名古屋学院大学学術情報センター長（2008年3月まで）
2008年4月	名古屋学院大学大学院外国語学研究科博士後期課程（通信）◎教授
2008年10月	学校法人名古屋学院大学常任理事（財務担当）（2012年3月まで）
2009年4月	名古屋学院大学外国語学部長（2011年3月まで）
2010年12月	『名古屋学院大学50周年史』編纂委員会専門委員長（現在に至る）
2012年3月	名古屋学院大学を定年退職
2012年4月	名古屋学院大学大学院外国語学研究科特任教授（現在に至る）
2012年6月	名古屋学院大学名誉教授

学会及び社会における活動等

1970年4月	日本英文学会会員（2012年3月まで） 同学会 中部支部理事（1990年10月～2010年9月）
1971年11月	日本バーナード・ショー協会会員（現在に至る） 同協会 幹事（1971年11月～1982年2月） 同協会 理事（1982年3月～1984年5月） 同協会 常任理事（1984年6月～2004年5月） 同協会 事務局長（1988年6月～2004年5月） 同協会 会長（2004年6月～2010年5月）
1989年5月	サイコアナリティカル英文学会会員（2012年3月まで） 同学会 常任理事（1990年10月～2012年3月）
1992年5月	国際異文化学会会員（2012年3月まで） 同学会 理事（1992年4月～2004年3月）
1998年6月	社会福祉法人あいち清光会評議員・理事（現在に至る）
1998年7月	ロータリークラブ会員（2006年6月まで） 名古屋守山RC（1998年7月～2001年6月） 名古屋東山RC（2001年7月～2006年6月） 名古屋東山RC副会長（2004年7月～2005年6月）
2004年4月	大学基準協会大学評価委員（2011年3月まで） 大学評価委員会主査（2006年4月～2010年3月）
2012年4月	国際異文化コミュニケーション学会理事（現在に至る）

主要業績目録

著書

- George Bernard Shaw—a dramatist of conscience—* 単著 産業科学研究所 1972・4
『バーナード・ショー—創作活動の足跡—』単著 穂高出版 1976・8
『バーナード・ショー研究』単著 穂高出版 1978・4
『便覧 バーナード・ショーの劇』単著 明治出版 1979・4
『比較文学』単著 明治出版 1983・4
『バーナード・ショー研究』共著 第2章「ショーの演劇観」 学書房 1986・5
『英国劇の足跡』単著 明治出版 1987・3
『明治時代の翻訳文学』単著 明治出版 1988・3
『バーナード・ショー研究—演劇論—』（博士論文）単著 文化書房博文社 1996・1

The Relationship between Japanese Translations of English Literature and the Creation of Modern Japanese

Literature (Ph. D. 論文) 単著 明治出版 1997・11

『異文化への道標』共著 第3章「バーナード・ショーと『聖書』—人間の寿命をめぐる—」 大空社
1998・10

『イギリスの演劇—宗教と文化を交えて語る—』単著 文化書房博文社 2003・3

Americas' Worlds and the World's Americas 共著 IV.2 “Bernard Shaw and America” Legas (カナダ) 2006・
8

『バーナード・ショーへのいざない』共著 「はしがき」第1章「ショーの楽しみ方」第2章「ショーの生涯」第3章「ショーと2度の世界大戦」 文化書房博文社 2006・11

『翻訳文学のあゆみ』単著 世界思想社 2008・10

『英米文学への誘い』共著 第15章「イギリスの偉大な劇作家—シェイクスピアとショー」 文化書房博文社 2008・7

『英文学の風景』共著 第2章「中世の宗教劇」 文化書房博文社 2011・12

翻訳書

『劇文学の研究』(J. L. Styan: *The Dramatic Experience*) 単独 穂高出版 1975・4

『イギリス演劇史』(I. Evans: *A Short History of English Drama*) 単独 明治出版 1980・10

学術論文

『論集』=『名古屋学院大学論集』

『外語論集』=『名古屋学院大学外国語学部論集』

『教育紀要』=『名古屋学院大学外国語教育紀要』

Sprout = 立正大学大学院機関誌

GBS = 日本バーナード・ショー協会機関誌

『ショー研究』=『バーナード・ショー研究』(日本バーナード・ショー協会論文集)

『英文学論叢』=『サイコアナリティカル英文学論叢』(サイコアナリティカル英文学会論文集)

『現代演劇』=英潮社発行季刊誌

“A Dramatic Purpose of George Bernard Shaw” 『論集』19号 1969・9

“Shaw a Realist” 『論集』20号 1969・12

“Shaw a Satirist” 『論集』7巻1号 1970・3

“Money and Conscience in the Plays by G. B. Shaw” 『論集』7巻2号 1970・12

“God and the Man in the Plays by G. B. Shaw” 『論集』8巻1号 1971・3

“On the Problems of Marriage in the Plays by G. B. Shaw” 『論集』8巻2号 1971・12

「Shavian Irony について」 『論集』9巻1号 1972・3

“Shavian Irony and Shavian Dramatic Intentions” *Sprout*, No. 4 1972・9

- “Shaw an Iconoclast” 1973・3『論集』9巻2号
- 「バーナード・ショーとウィリアム・モリス及びその家族たち」『論集』1巻1号 1973・6
- 「ショーの皮肉とその意図—『バーバラ少佐』をめぐる—」*GBS*, No. 2 1973・11
- 「バーナード・ショーと生の哲学」*GBS*, No. 3 1974・3
- 「W. B. イェーツの劇」『論集』11巻1号 1974・6
- 「劇作家ショーが登場した頃のイギリス演劇」『論集』11巻2号 1974・12
- 「『未熟期』のショー—彼の小説—」『論集』12巻1号 1975・9
- 「ショーの『青書劇』」『論集』12巻2号 1976・3
- 「バーナード・ショーのピューリタンの喜劇」『論集』13巻1号 1976・9
- 「バーナード・ショーのフロイド観」『英文学論叢』1号 1978・1
- 「ショーの議論劇」『論集』14巻1号 1978・3
- 「バーナード・ショーの序文」『論集』14巻2号 1978・3
- 「バーナード・ショーの劇(1)—良心の問題—」『論集』15巻1号 1978・10
- 「ショーの書簡と序文」*GBS*, No. 7 1978・10
- 「『運命の人』論考」『現代演劇』3号 1980・1
- 「イギリス演劇の起源」『論集』21巻2号 1985・1
- 「ショーの“New Woman”と“New Man”」『教育紀要』12号 1985・5
- 「初期のイギリス演劇」『論集』22巻2号 1986・1
- 「大学才人たちの劇」『論集』23巻2号 1987・1
- 「明治以前の翻訳文学」『論集』24巻2号 1988・1
- 「*Heartbreak House* 論考」『教育紀要』18号 1988・3
- 「ショーの家庭環境と作品—『男やもめの長屋』の場合—」『英文学論叢』13号 1989・12
- 「*You Never Can Tell*におけるパトグラフィ的痕跡」『外語論集』1号 1990・3
- 「ショーの作品と家庭」*GBS*, No. 15 1990・10
- 「バーナード・ショーの軍人像—初期の作品を中心に—」『外語論集』2巻2号 1990・10
- 「ショーと第一次世界大戦」『ショー研究』1号 1991・3
- 「シェイヴィアン・ドラマにおける政治問題」『教育紀要』22号 1991・9
- 「ショーの軍人」*GBS*, No. 16 1991・10
- 「ショーの劇における宗教問題」『ショー研究』2号 1992・7
- “The Lineage of Utopian Literature and Bernard Shaw”『外語論集』6巻2号 1995・4
- “The Plot and the Theme in *Mrs Warren’s Profession*”『論集』32巻1号 1995・7
- “Counterfeit Solution and Shaw’s Intention”『外語論集』7巻1号 1995・12
- “English Literature and the Establishment of Modern Japanese Literary Concepts in the Meiji Era”『教育紀要』26号 1996・1
- “Haiku Moments: A Re-consideration of Yeats’s Source for ‘Imitated from the Japanese’”『外語論集』7巻2号 1996・4

- “Jack London’s Approach to Ethnicity in ‘Koolau the leper’ and ‘The Mexican’” 『論集』 33 巻 1 号 1996・7
- 「バーナード・ショーの老人—*Heartbreak House* を中心に—」 『外語論集』 9 巻 2 号 1998・1
- 「バーナード・ショーの老人たち」 *GBS*, No. 21 1998・7
- “Elderly Characters in *Back to Methuselah*” 『ショー研究』 4 号 1999・3
- 「ユートピア文学における老人—*Utopia* と *Gulliver’s Travels* の場合—」 『浅若記念論文集』（金城学院大学）
1999・3
- 「幸福な老人・不幸な老人—*Silas Marner* と *King Lear* の場合—」 『論集』 10 巻 2 号 1999・4
- “English Songs and Japanese School Songs in the Early Meiji Era” 『論集』 11 巻 1 号 2000・3
- 「寓意劇 *Pygmalion*」 『論集』 12 巻 1 号 2000・3
- 『バーナード・ショーの政治論議—政治狂想劇へ向けて—』 『論集』 13 巻 2 号 2002・3
- 「バーナード・ショーとジャネット・アチャーチ」 『ショー研究』 6 号 2003・6
- 「劇作品と自伝—バーナード・ショーの場合—」 『英文学論叢』 25 号 2005・1
- 「ショーの反戦一幕劇」 *GBS*, No. 28 2005・6
- 「ショーの喜劇に見る偽善と偽悪」 『論集』 18 巻 1 号 2006・3
- 「バーナード・ショーのト書」 *GBS*, No. 32 2009・6
- 「作品の題名—*Major Barbara* の翻訳をめぐる—」 *GBS*, No. 34 2011・6